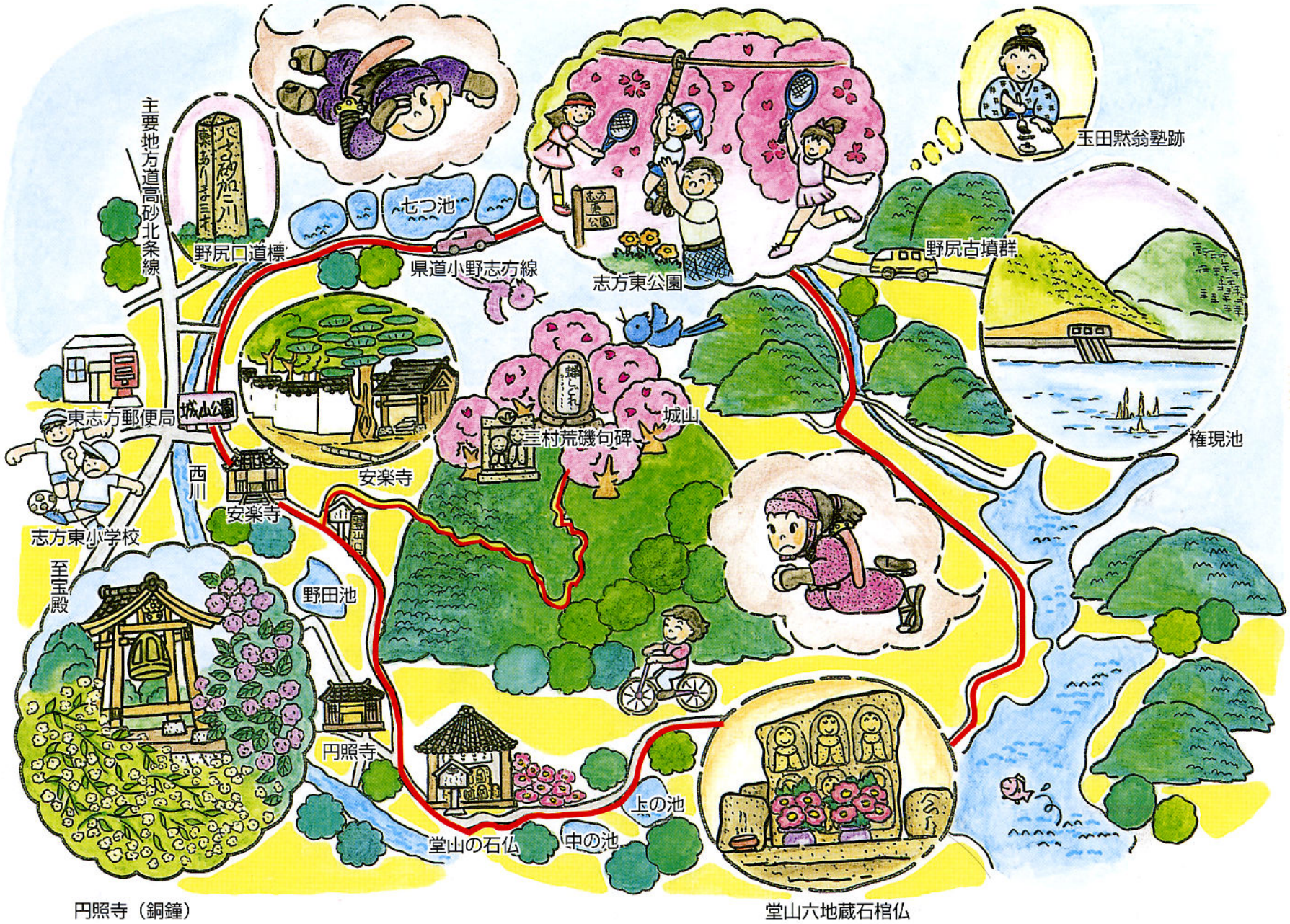
城山ハイキング

歩いてまわれるコースで名所旧跡を紹介する散策シリーズ。
標高271・6mの城山は、中世の山城の遺構としては、東播磨では代表的な城跡です。山頂からの見晴らしは抜群の城山ハイキング。
加古川再発見に、さあ、出発！



コース　所要時間　4時間8分・12.3km

志方東公園 —2.1km 35分— 城山登山口 —1.7km 60分— 城山山頂 —1.7km 40分— 城山登山口 —6.8km 113分— 志方東公園

城山ハイキング

蝉しぐれ
古城をあらく
子らのぼる

三村荒磯の句碑

中道子山城跡（城山）

城跡がある中道子山は、俗になまって「ちゅうどすさん」と呼び、通称「城山」と呼ばれています。

中世の山城の遺構としては、東播磨では代表的な城跡です。1300年代、赤松氏によって築かれ、1500年代後期に秀吉によって落城するまで続いたといわれています。

この城山は、播磨中部丘陵県立自然公園の中にあり、標高271.6mで頂上は広い台地になっています。また、春には山桜が咲き誇り、ハイキングには最適です。

安楽寺

中道子山（城山）のふもとにあり、永正15年（1518）真紹上人の開基といわれています。

遠望すると、白い塀が長く続いているのが印象的です。境内の桜の大木の満開は見事です。年中、庭に花が絶えません。

徳川八代将軍吉宗公の第三子が播磨の国で2万2千2百石の采地を拝領し、志方町細工所に陣屋を設置しました。境内の墓所にその代官、或いは役人の墓と思われる石碑があります。

円照寺の銅鐘
（市指定文化財）

この銅鐘は、もと山口県徳山市の上野八幡宮のものでしたが、豊臣秀吉が島津氏との戦いに陣鐘として用い、帰京の際に宮谷付近に捨てたものを志方八幡神社に納めましたが、鳴りが悪かったため円照寺に納められたといわれています。銅鐘は小振りですが全体的に優美な形状で特に鐘をつく位置に撞座の美しい文様があります。

加古川市内では、尾上神社及び鶴林寺にある重要文化財の朝鮮鐘に次ぐ明応7年（1498）の年号をもち、室町時代の鋳造技術の高さを伝える優品です。

城山の伝説 1

《軍用金埋蔵の話》

「朝日照る、夕日輝く木の下に、瓦千枚、金千枚」この歌は、中道子山城にまつわる軍用金埋蔵の暗号の歌です。また、この歌は「八重が谷」とはっきり場所を指定した歌にもなって伝わり、昔から幾人もの人によって宝探しがなされたそうです。しかし、八重が谷がどの谷のことかそれさえわかっていません。

城山の伝説 2

《竹の皮の話》

羽柴秀吉の軍勢は、三木城も神吉城も志方城も攻め落としてしまい、中道子山城は今や孤立無援。いかにして攻め上がってくる敵を防ぐか、幸い山腹が急斜面であるところから、一面に竹の皮を敷きつめることにしました。しかし、敵もさるもの、麓から竹の皮に火を放ちました。四方から燃え上がる火勢は、みるみる城を包みました。そこで、城方では、兵糧米をばらまいて火を防ぎました。しかし、防ぎきることはできず落城してしまいました。今でもあちこちの岩かげからそのときの焼き米が出てくるといわれています。

志方東公園

堂山の六地蔵石棺仏

この石棺仏は、上下二段に深く彫られた6つの舟型光背の中に六地蔵が浮き彫りになっています。素朴、稚拙ですが、よく保存され蓮台や胸のあたりの線が美しく、左下に一女人の像が刻まれていますが、石仏の施主でしょう。室町時代後期のものといわれています。